

教科書改善のための調査研究報告書

— 平成15年度文部科学省調査研究委嘱 —

〈用語について〉

- ・ 13化学物質 : 厚生労働省指定の13化学物質
- ・ 対応本 : 化学物質過敏症の児童・生徒に対応した教科書
- ・ 全頁コピー本 : 教科書の全頁をカラー（白黒）コピーした本
- ・ 表紙コピー本 : 表紙のみカラーコピーした本
- ・ 表紙未加工本 : 表面加工を施していない表紙の本
- ・ 消臭紙 : 光触媒として二酸化チタンを配合した消臭効果のある紙
- ・ 天日干し : 教科書から化学物質を揮散させるために天日に干すこと
- ・ 表紙表面加工 : 教科書の保護・耐久性（PP、プレスコート・UVニス・ニス引き等）
- ・ 通常本 : 学校で通常使用する教科書
- ・ VOC : 揮発性有機化合物
- ・ TVOC : 揮発性有機化合物総量
- ・ PRTR法 : 化学物質排出把握管理促進法

はじめに

近年、「化学物質過敏症」が大きな社会問題としてクローズアップされ、その原因究明と対策が急がれています。

化学物質過敏症は、「シックハウス症候群」の例に見られるように、主として、建築物に由来するものに集中していました。しかし、最近、化学物質過敏症の児童・生徒が、教科書を使用する際にも体調悪化を訴える事例が報告されています。教科書が児童・生徒の健康に影響を与えているのかどうか、新たな状況が生まれてきています。

この事例について、社団法人教科書協会では、直ちに関係機関の協力を得て調査を行ってきました。そしてこのたび、平成15年度に文部科学省より、「教科書改善のための調査研究」の委嘱を受け、教科書と体調悪化の因果関係についての解明と、今後の対策をたてるための調査研究に取り組むことになりました。

化学物質過敏症と言っても、その原因となる化学物質は多数存在し、その人の体質や置かれた生活環境によってさまざまな反応を示し、現れる症状も多様です。

平成12年4月 厚生労働省は、シックハウス問題に関する検討会により、13化学物質の室内濃度の指針値を設定しました。また、文部科学省では、平成15年2月、これまでの「学校環境衛生の基準」を改訂し、シックハウス症候群に関しての室内空气中化学物質濃度の指針値を設定しました。本調査研究においても、それらの内容を参考にしています。

今回の本調査研究委員会では、化学物質過敏症の児童・生徒が教科書からどのような影響を受けているか、その実態と教科書素材の分析の両面から調査研究に取り組みました。その調査研究の結果を報告させていただきます。

この委嘱調査研究には、教科書発行会社をはじめ、学校関係者、自治体、医学関係者・化学物質の専門家、製紙・印刷・インキ・流通関係者など多くの方の参画によって行われていることを付記しておきます。

平成16年3月
教科書改善のための調査研究委員会
委員長 保川昌弘